

★ 茶 害虫情報

茶の害虫のうち、カンザワハダニ、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ、クワシロカイガラムシについて8月に行った巡回調査の結果は表1～4のとおりでした。過去10年間の平均値(平年と表記)を100とした場合の今年の値は、寄生芽(葉)率、寄生虫数、発生ほ場率など多くの項目で100以上となりました。

このような発生状況をうけて、平成22年8月26日付けで発表した病虫害発生予報第7号(9月)において、**カンザワハダニ、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ、クワシロカイガラムシ**は「**やや多い**」または「**多い**」と予想しました。今後の発生に十分留意してください。

1 カンザワハダニ

(1) 発生状況及び発生予報(表1参照)

山城の発生状況は、寄生葉率、寄生虫数、発生ほ場率とも**平年並の発生**でした。しかし、22箇所の調査ほ場のうち寄生葉率が10%を超えたほ場は3箇所で、ここでは寄生虫数も184～40匹/100葉でしたが、他のほ場では寄生葉率が0%～6%であり、ほ場間差が大きいと考えられます。

丹波の発生状況は、発生ほ場率が平年比多く、寄生葉率、寄生虫数は平年比やや多く、まとめると**平年比やや多い発生**でした。個々の調査ほ場の寄生葉率は2～6%と高くありませんが、1ほ場で成虫6匹/100葉、幼虫48匹/100葉が確認されました。

(2) 発生予報及び防除上の留意点

繁殖力は10～30℃の範囲で高温の時ほど高く、降雨により増殖が抑制されます。気象の1ヶ月予報では今月は、気温が高く、降水量は平年並と予想されていることから**9月の発生量は山城、丹波とも平年比やや多い**と予想しました。

こまめに葉裏を観察し早期発見・防除に心懸けてください、防除に当たっては作用性の異なる農薬でローテーション防除を行いましょう。

2 チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 発生状況(表2参照)

山城の発生状況は、寄生芽率、発生ほ場率は平年比多く、寄生虫数は平年比やや多く、まとめると**平年比多い発生**でした。22箇所の調査ほ場のうち、18ほ場は寄生芽率が0%～4%、残り4ほ場が12～48%で、ほ場間差が大きいと考えられます。

丹波の発生状況は、全ての調査項目とも**平年比やや多い結果**でした。6箇所の調査ほ場のうち、中発と多発のほ場がそれぞれ2箇所となっており、地域全体の発生量は多いと考えられます。

(2) 発生予報及び防除上の留意点

乾燥小雨が増加に適した条件ですが、気象の1ヶ月予報で今月の降水量は平年並と予想されることから**9月の発生量は山城で平年比多く、丹波で平年比やや多い**と予想しました。

今後とも発生動向に注意し、必要に応じて防除してください。

3 チャノキイロアザミウマ

(1) 発生状況 (表3 参照)

山城の発生状況は、寄生芽率は平年比やや少ないものの、寄生虫数及び発生ほ場率は平年比やや多く、まとめると**平年比やや多い発生**でした。22箇所の調査ほ場全てで寄生が確認され、寄生芽率が10%以上のほ場も14ほ場あり、地域全体の密度は高いと考えられます。

丹波の発生状況は寄生芽率は平年比やや多く、寄生虫数は平年比多く、発生ほ場率は平年並で、まとめると**平年比やや多い発生**でした。調査ほ場全てで寄生を確認し、平均寄生虫数は158匹/100芽(平年比798)と高い値でした。

(2) 発生予報及び防除上の留意点

本種は、主に二番茶以後に増加し、夏秋芽を吸汁加害します。多雨により発生は減少するとされていますが、気象の1ヶ月予報で今月の降水量は平年並と予想されているため、**9月の発生量は両地域とも平年比やや多い**としました。

一部の茶園では生息密度が高いので、発生動向に注意し早期防除に心懸けてください。

4 クワシロカイガラムシ

(1) 発生状況 (表4 参照)

山城、丹波とも寄生株率、発生ほ場率とも**平年比多い結果**でした。山城では発生ほ場率は77.3%でしたが、寄生株率が50%以上のほ場も4ほ場ありました。丹波では、全てのほ場で寄生が確認され、寄生株率は10~50%でした。

(2) 発生予報及び防除上の留意点

発生が継続とすると考え、**9月の発生量は両地域とも平年比多い**としました。

通常、防除適期である第3世代幼虫ふ化期は、9月下旬から10月上旬ですが、園によって時期が異なります。ふ化した卵の割合が半分以上になった頃が防除適期ですので、ルーペなどを用いて観察し適期防除に努めましょう。

表1 カンザワハダニの発生状況

地域	平年比	項目	平年比	H22	平年
山城	並	寄生葉率	並	125 (4.9)	100 (3.9)
		寄生虫数	並	129 (19.4)	100 (15.0)
		発生ほ場率	並	85 (31.8)	100 (37.3)
丹波	やや多	寄生葉率	やや多	113 (3.7)	100 (3.2)
		寄生虫数	やや多	62 (11.3)	100 (18.3)
		発生ほ場率	多	250 (100.0)	100 (40.0)

表2 チャノミドリヒメコバヤの発生状況

地域	平年比	項目	平年比	H22	平年
山城	多	被害芽率	多	376 (6.2)	100 (1.6)
		寄生虫数	やや多	277 (5.5)	100 (2.0)
		発生ほ場率	多	290 (45.5)	100 (15.7)
丹波	やや多	被害芽率	やや多	209 (11.3)	100 (5.4)
		寄生虫数	やや多	198 (11.0)	100 (5.6)
		発生ほ場率	やや多	123 (66.7)	100 (54.2)

表3 チャノキイロアザミウマの発生状況

地域	平年比	項目	平年比	H22	平年
山城	やや多	被害芽率	やや少	70 (22.0)	100 (31.3)
		寄生虫数	やや多	129 (65.2)	100 (50.6)
		発生ほ場率	やや多	111 (100.0)	100 (89.8)
丹波	やや多	被害芽率	やや多	175 (52.7)	100 (30.1)
		寄生虫数	多	798 (158.0)	100 (19.8)
		発生ほ場率	並	114 (100.0)	100 (87.5)

表4 クワシロカイガラムシの発生状況

地域	平年比	項目	平年比	H22	平年
山城	多	寄生株率	多	154 (23.2)	100 (15.1)
		発生ほ場率	多	135 (77.3)	100 (57.3)
丹波	多	寄生株率	多	219 (33.3)	100 (15.2)
		発生ほ場率	多	176 (100.0)	100 (56.7)

注) 表中の数字は平年値を100とした時の値()内の数字は実数値、寄生虫数は100芽(葉)当たりの成幼虫数